

**平成 26 年度(2014 年度) 第 3 回とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨**

日時 : 平成 27 年(2015 年) 2 月 24 日(火) 15 時 00 分～17 時 00 分
場所 : 豊中市消防本部 3 階 大会議室
出席委員 : 新川委員、赤尾委員、安藤委員、坂田委員、砂原委員、土山委員
事務局 : 本荘、福山、泉、森、熊本、桑野、比嘉、中本、仲谷
傍聴 : 0 人

○開会

○案件 (1)ふりかえり

資料 : 資料 1 「平成 26 年度(2014 年度)第 2 回運営委員会議事要旨」

○案件 (2) 平成 26 年度 (2014 年度)調査研究について (報告)

資料 : 資料 2 「平成 26 年度 (2014 年度)調査研究報告」

事務局から資料に基づき説明があった。

以下、調査研究に関して、テーマごとに質疑応答をまとめる。

≫ 「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究 (Ⅲ)」について

・委員 : 世田谷区における一連のモデルについて、豊中市に移し替えて考えた場合具体的に豊中市ではどのように活かせるのか。

・事務局 : 今のところ、豊中市における市内転居の動きとしては、南部から北部への転居が顕著である。豊中市においてはこのような市内転居の供給源としての南部地域に注目しており、若者を中心に呼び込めれば市内転居のよい流れが作ることができると考えている。ただ、人口減少の進んでいる地域でもあるので即座に世田谷区におけるモデルを適用できるわけではない。

・委員 : 人口増加・維持策の効果は限定的とあるが、「個々の施策の効果が限定的だから実施しない」のか。

・事務局 : 個々の施策について今のところ明確に効果があることを明記している自治体はほとんどない。今後は単発の事業として打ち出していくよりも、それぞれをどんな「政策パッケージ」として総合して打ち出すかが重要であると考えている。

・委員 : マニュアルを作ることの意義とは。研究所として推計したデータを出すことのほうが喜ばれるのではないか。

・委員：他市の人口誘導策を参考にするのも良いが、豊中市がこれまでどのような人口誘導を行ってきたのかということについて着目してもよかったのではないかと。また、マニュアルについては、未婚率を考慮に入れてもよかったのではないかと。

・事務局：推計をするうえで様々な「縛り」があるが、そのような中で市全体としての推計手法をある程度標準化する必要があるため。また、総合計画の基本構想においても様々な状況を踏まえて人口推計ができるように支援するためという目的もある。未婚率は出生率仮定値に反映されていると考えている。

➤ 「豊中市の財政構造に関する調査研究」について

・委員：将来コストが財政に及ぼす影響について、ここでもう少し様々なシミュレーションのパターンについて検討しても実質的な議論ができてよいのではないかと。また、払下げの影響がでてくることが予想されるがそれについてはどうか。

・事務局：シミュレーションについては施設の担当者と協議して検討する。払下げの影響については、現段階で事例が見つからず算出根拠が分らなかったため今回は算出していない。

➤ 「豊中市・沖縄市の都市間交流の新たな展開に関する調査・研究」について

・委員：諸外国では経済交流という形でお互いに物を売るという交流があることも指摘されているが、豊中市と沖縄市の間ではそういうことはしているのか。

・事務局：例えば、豊中まつりでは沖縄市のブースで物を売ったりしているが、一方で豊中市が沖縄市で物を売るとは現段階ではしていない。おそらくこのことも沖縄市における豊中市の認知不足に一定程度影響していると考えられる。今後そのような形での交流を作り出すものとして、食文化や音楽文化面での交流は選択肢としてあるのではないかと。

・委員：豊中市で何か作って売ろうということにはならないのか。

・事務局：豊中の産物を沖縄で売るということよりも、あくまで互いの市の人と人の交流によって互いの市の文化や価値を知っていくことが望ましい。市民間交流を「長く・太い」ものにしていくことが本研究の最終目標である。

・委員：沖縄市には基地や戦争の歴史などがあるが、そういったレベルでの交流については何か考えはあるか。

・事務局：以前は平和大使という形で、中学生が沖縄市の基地を訪問し交流する企画があったのだが、財政状況の悪化でなくなってしまった。今後は少しずつそういった事業も進めていければと思う。

○案件 (3) 平成 27 年度 (2015 年度) 事業計画 (修正案) について

資料：資料 3「平成 27 年度 (2015 年度) 事業計画 (修正案)」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる。

・委員：総合計画の見直しや「まち・ひと・しごと創生総合戦略」はどういう体制・力配分で進めていくのか。

・事務局：流れとしては先に産業界や各種団体の意見を聞きつつ「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その後総合計画を見直していくという二段階の流れをとる。また、総合戦略との整合性を担保しつつ各種計画(都市計画マスタープラン等)も見直していく。各種データについては当研究所のものを利用していけばと考えている。

・委員：市民ワークショップについては具体的にどのようなものを想定しているのか。

・事務局：詳細についてはまだ。総合計画の見直しについてはまちの将来像などのレベルから見直していくが、行政だけでは作れないのが基本的なスタンスであり市民の方と意見を述べ合う必要がある。年度末には基本理念等についても意見を頂きながら作っていければと思う。

○その他

▶業務連絡

・今回で第 4 期目の運営委員会が終了。市民委員から挨拶。

・委員：市民が意見を述べられる場は限られているので、このような場でもっと意見を述べられればと思う。市民委員をもう少し増やせれば。

・委員：研究の成果が市政に反映されることを望む。

○閉会